

第2回 県内技術研究発表会（平成19年1月16日）

	論文題名	所 属	氏 名	
1	斐伊川水道建設事業宍道湖湖底菅布設工事	企業局開発課	主任 千葉正徳	
2	松江第五大橋道路の渡河部橋梁における設計 VE の取り組みについて	高規格道路事務所	企画員 江角豪人	
3	史跡松江城石垣保存修理に関する工法	松江市	主任 河本智人 副主任 藤原 稔	
4	「森林 GIS」を活用した林道事業の再評価について	県央県土整備事務所	主任技師 萬代邦行	
5	一般県道久城インター線益田橋梁におけるコンクリートのひび割れ対策について	益田県土整備事務所	主任 遠藤 徹	○
6	土壌浸食防止剤を用いた法面保護工の事例	浜田県土整備事務所	主任 今井 研	☆
7	トンネル施工体制の確立に向けて	益田県土整備事務所	主任 鳥谷 聡	
8	公園の適切な運営管理に向けて 石見海浜公園	浜田県土整備事務所	主任 米原久人	
9	東岩坂バイパスの History と経済効果	松江県土整備事務所	主任 井上貴弘	○
10	竹割り型土留め工法の 計画・設計・施工について	浜田河川総合開発事務所	主任 三上利雄	
11	金城スマートインターチェンジの 恒久設置に向けた取り組み	高速道路推進課	主任技師 今川 文	
12	玉造温泉街賑わい歩行空間社会実験	松江市	主幹 寺沢祥司 専門企画員 青山昭雄	☆
13	津和野における住民との協働による道づくり	益田県土整備事務所 津和野土木事業所	主任 板垣正明	○
14	松江第五大橋道路のトンネルにおける 計画変更手法について	高規格道路事務所	主幹 森脇和司	

○…優秀賞

☆…聴講賞

平成18年度 県内技術研究発表会 日程表及び発表者論文の概要

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 開会 | 9:10 |
| 2. 挨拶 | 9:10～ |
| 3. 発表会における留意事項等 | 9:15～ |
| 4. 研究発表会 | 9:20～ |

一般部門	
1 9:20～	<p>【斐伊川水道建設事業央道湖湖底管布設工事】 企業局開発課 主任 千葉正徳</p> <p>央道湖湖底配管の設計、施工、環境影響について。</p>
2 9:40～	<p>【松江第五大橋道路の渡河部橋梁における設計VEの取り組みについて】 高規格道路事務所 企画員 江角豪人</p> <p>渡河部橋梁の桁形式については、基本計画案の鉸桁及び箱桁タイプから両橋とも張出部にブラケットを取付け、主桁を中央に寄せた箱桁改良タイプを提案し、景観検討委員会において了承を得た。ただし、その構造については、支間長からは本来、別形式の橋梁になるところを外観上同じ形式にしようとしたものであったため、桁と床版の構造について詳しく検討する必要が生じた。そこで渡河部橋梁構造検討部会を設け、2橋の上部工形式および機能等について整理検討し、コスト縮減を図りつつ景観上の要請にも応えられる適切な構造を設計するため、設計VEを実施したので、その内容を報告する。</p>
3 10:00～	<p>【史跡松江城石垣保存修理に関する工法】 松江市役所 主任 河本智人、副主任 藤原 稔</p> <p>石垣復旧についての基本的な考え方は、歴史的、文化的な価値を損なわないことが前提であり、また現存する石垣が永年その構造を維持している現状を踏まえ、当時の工法を踏襲し再現することが将来につながるものと考えられる。しかし、石垣の孕み出し等による崩落の危険性、天端石などの消失、現石材の利活用形態による配慮、また将来的な保存を目的とした設計において一般土木工事とは異なる検討課題が存在する。そして、現在の石材を再利用することによる工事管理の難易度が高い。この2点を中心とした災害復旧工事の様子を紹介する。</p>
4 10:20～	<p>【「森林GIS」を活用した林道事業の再評価について】 県央県土整備事務所 主任技師 萬代邦行</p> <p>林道事業の再評価については、事業効果の算定に様々な森林情報が必要とし、その資料作成に多大な労力を必要とすることから、森林現況や施業履歴等の森林情報が一元管理されている森林GISの活用が期待できる。そこで、平成16年度に当事務所で完了評価の対象となった「林道栃谷線」の資料作成にあたって、利用区域内の森林現況や森林整備実績の照会・集計等に森林GISの活用を図り、林道事業の再評価に有効に森林GISを利用していくための課題や今後の対応について考察した。</p>
5 10:40～	<p>【一般県道久城インター線 益田橋梁におけるコンクリートのひび割れ対策について】 益田県土整備事務所 主任 遠藤 徹</p> <p>本件は、ひび割れの予測から誘発目地の欠点の補強を行うなどの体系的かつ確実性の高い実施例について報告する。</p>
6 11:00～	<p>【土壌浸食防止剤を用いた法面保護工の事例】 浜田県土整備事務所 主任 今井 研</p> <p>室谷3期地区農免農道は、現道拡幅に伴う切土法面が長大であるため、法面保護工法の選定及び増額する工事費に苦慮している。昨年本工事で試験施工した法面保護工法(グラベール工法)は、種子と土壌改良剤を混合して法面に吹付けることで、 ①法面表層部の細粒分(粘土・シルト)を団粒化・架橋化することによる、吹付初期の表面浸食防止 ②団粒構造に種子が留まることで、早期の緑化が可能 ③基盤材が不要なため、従来の植生基材吹付工より低コスト というメリットが期待される。 本報告では同工法を行った他地区との比較、従来工法との比較を行うことで、施工後一年が経過した工法の評価を行いたい。</p>
7 11:20～	<p>【トンネル施工体制の確立に向けて】 益田県土整備事務所 主任 鳥谷 聡</p> <p>H17・(主)吉賀匹見線樫田トンネルの施工にあたり、トンネル掘削時の地山判定手法として事務所内に「地山判定委員会」を組織した。この組織による施工体制の結果報告とH18から施工する国道488号長沢バイパス1号トンネルの掘削に向けた新たな施工体制の運営方針について発表する。</p>
8 11:40～	<p>【公園の適切な運営管理に向けて～石見海浜公園～】 浜田県土整備事務所 主任 米原久人</p> <p>石見海浜公園の維持管理のあり方について検討を加えた結果、既存施設有効利用・公園台帳の整備・公園施設管理台帳整備・管理マニュアルの作成について提案し、その取り組み状況を紹介するもの。</p>
12:00～	昼食・休憩
9 13:00～	<p>【東岩坂バイパスのHistoryと経済効果】 松江県土整備事務所 主任 井上貴博</p> <p>昭和54年からの長い経緯を経てトンネルバイパスから現道拡幅+ループのルート変更になった国道432号東岩坂バイパスに対する地元からの批判・反発から明らかになった過去の計画の度重なる事業計画変更の積み重ねと、ルート変更とその地元説明・交渉の中で見てきた道路事業の現在評価方法の矛盾と新たな評価手法について。</p>
10 13:20～	<p>【竹割り型土留め工法の計画・設計・施工について】 浜田河川総合開発事務所 主任 三上利雄</p> <p>新工法である「竹割り型土留め工法」を採用し施工したのでその計画・設計の手法及び施工方法を紹介するもの。</p>

11 13:40～	<p>【金城スマートインターチェンジの恒久設置に向けた取り組み】 高速道路推進課 主任技師 今川 文</p> <p>「スマートIC」、「利用促進のための取り組み」、「国県市地元が一体となった取り組み状況の発表と成果」、「今後の高速道路利用促進のPR」について発表。</p>
12 14:00～	<p>【玉造温泉街賑わい歩行空間社会実験】 松江市役所 主幹 寺沢祥司、専門企画員 青山昭雄</p> <p>玉造温泉街の入り込み客数は、70万人前後で低調に推移しており、更なる賑わいを創出することが大きな課題の一つとなっている。そのようななか、旧玉湯町に対し、地域団体の代表からなる「玉湯町都市再生整備計画(温泉街基盤整備事業)検討委員会」から、来訪者がそぞろ歩く環境づくりや、一方通行化などの交通規制、電線類の地中化などの基盤整備事業等に関する提言がなされ、このうち交通規制に関しては、地域に与える影響を確認するために試行することが付言されていた。この提言を受け、松江市では歩行空間の確保や車両の一方通行および通行止めなどの交通社会実験を実施し、その効果と問題点を確認した。</p>
13 14:20～	<p>【津和野における住民との協働による道づくり】 益田県土整備事務所津和野土木事業所 主任 板垣正明</p> <p>津和野町後田地内の(主)萩津和野線と(一)柿木津和野停車場線は、鯉の泳ぐ白壁の殿町通りから駅前へ続く、津和野の観光の中心地である。ここを舞台に、平成10年度から、住民との協働により、歩道、歩車共存道、電線共同溝、サイン等の計画・整備をおこなってきた。このためにおこなった様々な工夫や、実施段階での課題を整理し、今後のより良い道づくりに資することを目的とする。</p>
14 14:40～	<p>【松江第五大橋道路のトンネルにおける計画変更手法について】 高規格道路事務所 主幹 森脇和司</p> <p>地質調査により、トンネル区間では新第三紀の松江層のうえに和久羅山の火山噴出物・安山岩が覆っていることが判明。トンネル計画位置はこの地層境界あたりになることから、湧水の発生、切羽の不安定等が懸念され、土かぶりの薄い区間ではトンネル掘削が困難になることが推定されるため、和久羅トンネル検討部会を設置し、トンネルを含む前後区間約1.7kmの道路計画の見直しを行った。検討にあたり、トンネル技術面ではトンネル専門家に現地調査・意見をいただき、重視する機能面では「車を通す」に加え「地域を守る」機能に着目した機能整理することで、コスト縮減のほか、騒音等環境面への影響を軽減した。その設計VEの内容について発表する。</p>

5. 意見情報交換
6. 講評及び表彰
7. 閉会

15:00～
15:40～
16:00